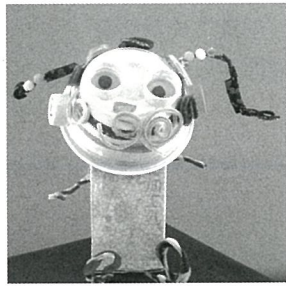




4年
川島 侑子さん



『ゆきゆき星人』

※顔の部分の
ざりに、モー
ルをまいた物
を使いました。
名前を使った
作品です。



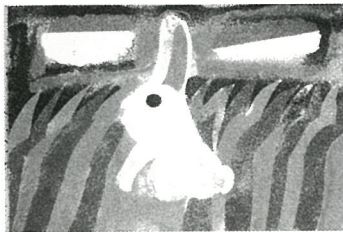
1年
布施 伶奈さん



『どうぶつだいすき』

※せきへちほく
じょうのうし
は、とてもか
わいかったで
す。

あつまれみんなの力作



『草の上のウサギ』



5年
片岡 舞さん

※草が、風にゆ
れてるように
するのがむず
かしかったで
す。雲を工夫
しました。



『ばいきんを
おいだせ!』

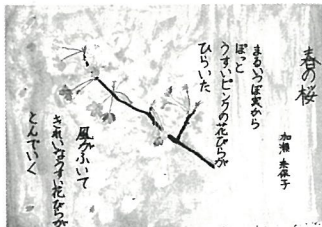


2年
鈴木 千裕さん

※かみの毛やは
を、ていねい
にぬることを
がんばりまし
た。



6年
加瀬奈保子さん



『春の桜』

※桜の花びらを
かくのが大変
だったけど、
本物の花のよ
うにかけてよ
かったです。



3年
萩原 直人くん

※びんのふたや
毛糸で、チー
ターねこを作
りました。つ
のにピースも
つけました。



『チーターねこ』



ひかり歌壇



伊藤 定男(尾垂)

身の動き鈍りし齡弁えず

脚立と軋び老いを知らざる

年甲斐もなく脚立に乗り転んでし
まった

高梨 キヨ(長塚)

風薫る葉かげに小さき房つけて

葡萄の新芽日毎のびゆく

葡萄の新芽が五月の風にゆれなが
ら日毎育っている

鈴木 益郎(原方)

今日の霧あまりの濃さに過ぎし日の

霧中離陸の怖さうかびぬ

かつて航空兵であった作者、霧中
離陸の恐ろしさが偲ばれる

安田 和子(作間内)

里山を崩せしというわが宅地

澄みたる空気と緑樹のあまた

造成して作った宅地は新鮮な空気
と緑がいっぱいである。満足感が
伝わってくる

短評 鈴木甲子幸

評者詠

孫のため続けし月がけの簡易保険
満期の通知われに届けり